

22. 山形県大石田町農家の住宅について

山形大教育 金子 幸子
長岡 佑
東北大工学 ○佐々木嘉彦

1. この報告は、積雪寒冷地農村における住生活、特に居住空間の構成と住み方の特質を明らかにする目的で行なった調査研究の一部である。

2. 大石田町は山形県有数の深雪地で、降雪期間約150日、最深積雪量は2 mにおよぶ積雪地である。平均気温 5°C 以下の月が4 ヶ月に渡り、冬季は北西風がはげしく寒気もかなりきびしい。当地域の水田経営農家の住宅は、寒さに対しては北側の開口部の制限が認められるほかは、防寒の考慮は殆んどないといってよく、雪に対する措置は冬季の雪囲い、住宅外囲りにおける板戸と欄間窓の多用、屋根裏の利用、住宅と付属建物との配置と連絡に関する留意等が見られたが、屋根、壁、開口部等における構造的特徴は一般に認められなかった。建物面積はさして広いとはいえず、作業空間の居住部分からの分離は甚だ未熟であった。間取型は、ヒロマ型三間取系で村山地方一般と異なるところはない。